

市町村名	南城市						
平成27年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	世界遺産「斎場御嶽」周辺整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-(ウ)	
担当部課名	教育部 文化課	事業実施(予定)年度	平成24~27年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	世界遺産「斎場御嶽」周辺地は琉球王国時代の歴史的遺産を今日まで残す貴重な地域であるが、一部石畳参道が大雨による影響で崩壊し危険な状況である。そのため本事業により石畳参道やウロカーとよばれる拝所等を整備し広く一般公開することにより、世界遺産「斎場御嶽」の更なる魅力を伝え、観光客等誘客促進を図る。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	27年度(繰越)	
	予算の状況	(a) 当初予算額	91,835	24,501	29,314	35,262	-
		(b) 予算現額	91,835	24,501	29,314	35,242	-
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	△ 20	-
		(d) 繰越額	-	-	-	-	18,447
		A. 計(b+d)	91,835	24,501	29,314	35,242	18,447
	B. 執行済額		89,187	24,501	26,363	16,795	18,447
	うち交付金充当額		71,349	19,600	21,090	13,436	14,757
	次年度繰越額		0	0	0	18,447	0
	執行率(%) (B/A)		97.1%	100.0%	89.9%	47.7%	100.0%
予算の状況の説明		当初、参道部分に木道の設置を予定していたが、専門家による整備委員会の協議において、埋蔵文化財保護の観点から、原状を維持するための土舗装工へ変更することとなり、その調整及び変更設計に不測の日数を要したことにより、工事のスケジュールに大幅な遅れが生じ、年度内完了が困難な状況となったことから、18,447千円を平成28年度に繰越した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	・石畳参道整備 L=96.5m	目標	(L=96.5m)	()	()	()	
		実績	L=437m				
	・木製階段設置 L55m	目標	(L=55m)	()	()	()	
		実績	L=6m				
	・サイン設置 8基	目標	(8基)	()	()	()	
		実績	3基				
	・概要版冊子 10,000冊	目標	(10,000冊)	()	()	()	
		実績	8,800冊				
達成状況説明	参道の整備については、当初木製階段と合わせての整備を予定していたが、整備委員会での協議により、埋蔵文化財保護の観点から、土舗装工(437m)へと変更し、実施した。戦争遺跡により分断された1カ所(6m)については、遺跡の保全と通行を考慮して木製階段の整備を実施した。 サイン設置は、英文表記を挿入し、当初予定より盤面を大きくしたことにより、8基から3基に変更した。 概要版冊子は紙面が増えたことで、当初予定の10,000冊から8,800冊に変更した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	国の重要文化財(史跡・戦争遺跡)指定に向けた復元整備	目標	()	(復元整備)	()	()	()
		実績		復元整備			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	専門家による整備委員会を設け、協議に基づく形で、参道の土舗装工を実施し、今後の国指定史跡への追加指定に向けて、遺構などの埋蔵文化財に極力影響のない範囲で整備を行った。					

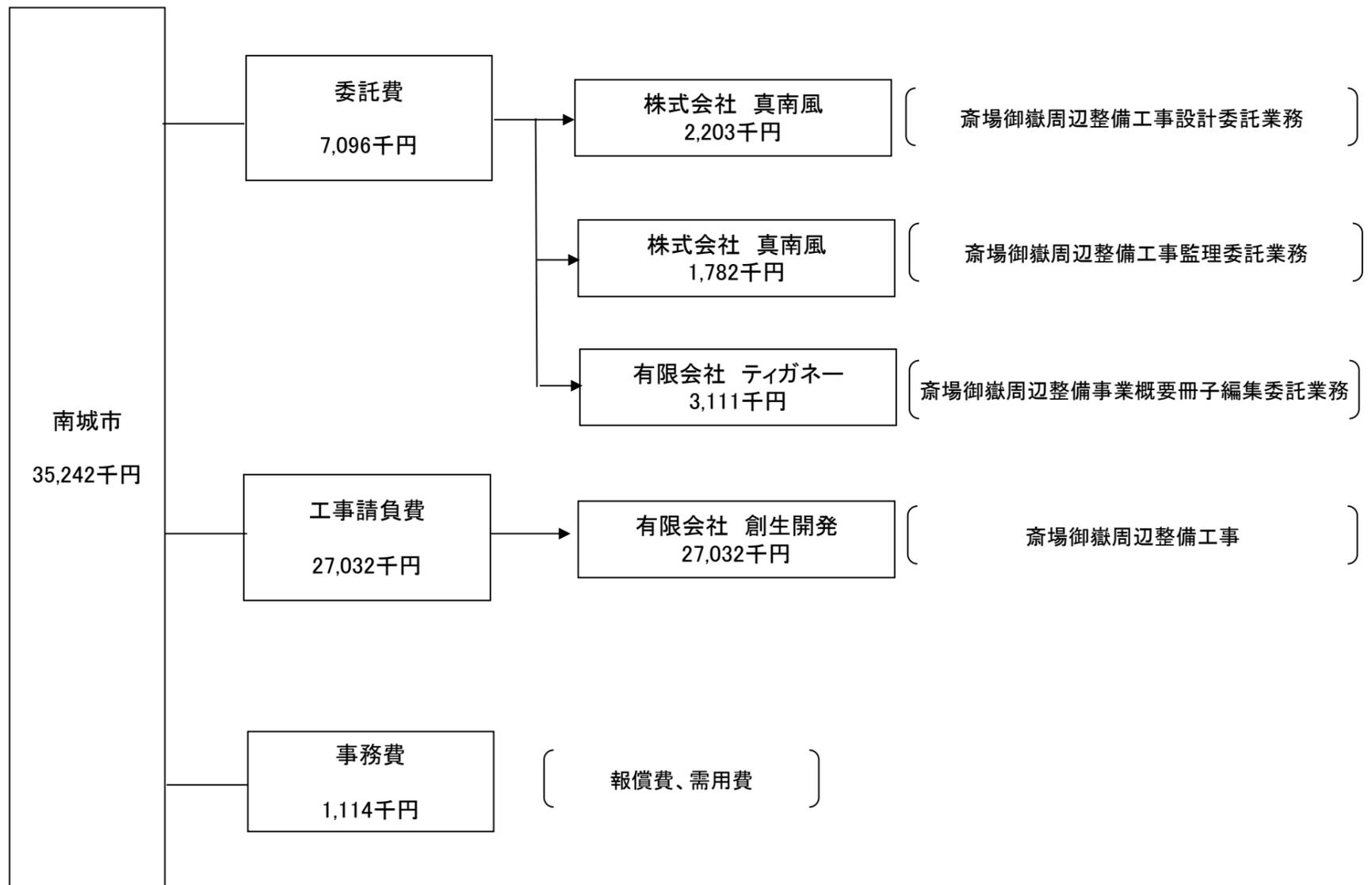
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	「齋場御嶽」基本計画において、隣接地に所在するウローカー等の拝所や参道等関連する文化遺産についても、より広域的に整備する必要性が課題としてあげられていたが、指定地域外ということもあり、公有地化されておらず、整備が行われていなかった。齋場御嶽が世界遺産に登録されたことで、多くの観光客が訪れるようになった昨今、訪れる人々に、より齋場御嶽を理解してもらうため、本地域を公有化して整備し、多くの観光客等への活用を図るために本事業を実施することとなった。	専門家による整備委員会を設置し、これまでに実施した調査の成果に基づき、将来的に国史跡として追加指定が行えるような整備を検討し実施する。
	事業の実施にあたっては、これまでに行われた調査の成果を踏まえ、参道等の整備に向け、専門家による整備に向けた委員会を設置し事業を実施しているが、本地域が齋場御嶽と一帯となる聖地であることから、将来的に国の史跡として追加指定が行えるような整備が課題である。	

今後の取り組み方針

今回の周辺整備事業において、ウローカーや参道が整備され、齋場御嶽と一体的な活用が可能となった。今後は国史跡への追加指定に向け、文化庁や県と調整を進めていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
35,242	35,242	28,193	7,049	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託及び工事の業者選定は指名競争入札により実施しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については不用額は20千円であり、適正な規模であったと考えている。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南城市							
平成27年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-⑥ 観光振興将来拠点地整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 第3章-3-(2)-(ウ) 観光客の受入体制の整備						
担当部課名	企画部 企画室 土木建築部 施設整備課	事業実施(予定)年度 平成25~30年度 沖縄振興基本方針該当箇所 Ⅲ-1-(1)						
事業内容	本県南部地域及び本市の体験交流・滞在型観光の促進等、新たな観光振興に向け、空港や沖縄自動車道、那覇市からの交通アクセスが大きく改善される南部東道路IC周辺地において、公共駐車場や観光情報施設、台風等の災害時における、観光外来者等の避難の為に防災センターの整備を行うと共に、民間の観光施設(宿泊施設・レンタカー営業所等)の誘致、各種イベント等との連携を強化し、観光交流拠点の形成を行う。							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	25年度(繰越)	26年度	26年度(繰越)	27年度	27年度(繰越)	
	予算の状況	(a) 当初予算額	125,000	—	161,900	—	228,655	—
		(b) 予算現額	125,000	—	161,900	—	228,655	—
		(c) 増減額(b-a)	0	—	0	—	0	—
		(d) 繰越額	—	114,020	—	109,483	—	181,622
		A. 計(b+d)	125,000	114,020	161,900	109,483	228,655	181,622
	B. 執行済額		10,980	108,891	52,417	103,647	47,033	176,751
	うち交付金充当額		8,784	86,216	41,933	79,587	37,626	141,401
	次年度繰越額		114,020	0	109,483	0	181,622	0
	執行率(%) (B/A)		8.8%	95.5%	32.4%	94.7%	20.6%	97.3%
予算の状況の説明		<ul style="list-style-type: none"> ・用地購入に伴う相続関係調査や代替地の単価協議、補償調整に不測の日数を要したことからH28年度へ繰越した。 ・用地取得予定地の交渉不調による未取得用地があり、4,871千円が不用額となった。 						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況					
			27年度	28年度	29年度	30年度		
	・観光振興将来拠点地整備にむけた実施設計委託業務の実施	目標	(実施設計の実施)	()	()	()		
		実績	実施設計の実施					
	・観光拠点地用地取得:31,797㎡	目標	(用地取得 31,797㎡)	()	()	()		
		実績	用地取得 32,551㎡					
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・実施設計については、平成27年9月24日に契約を締結し、平成28年6月30日に委託業務を完了することが出来た。 ・用地取得に関しては、平成26年度までに取得できなかった土地も取得し、目標を上回った。 							
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)	
	・H28年度の造成整備に向け実施設計の完了	目標	()	(実施設計の完了)	()	()	()	
		実績		実施設計の完了				
	・用地取得率:92.1% (全体計画面積:71,719㎡) H25:11,148㎡ H26:23,119㎡ H27:31,797㎡	目標	()	(用地取得率 92.1%)	()	()	()	
		実績		用地取得率 93.2%				
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・実施設計については、平成27年9月24日に契約を締結し、平成28年6月30日に委託業務を完了することが出来た。 ・用地取得については、全体計画面積に係る地権者74名中73名の地権者より用地を購入することが出来た。 ・用地取得率は目標を上回り93.2%となった。 						

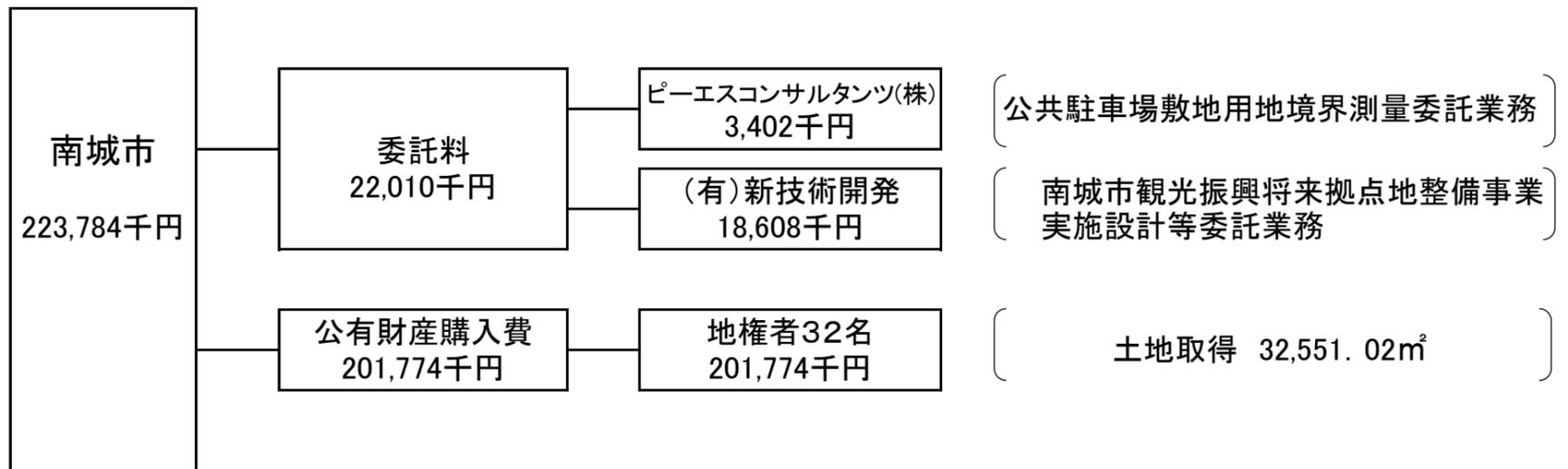
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・南部東道路のICや新庁舎建設などが整備される本市の中心地に、大規模駐車場や観光情報施設を整備することにより、本県南部地域及び本市の新たな観光振興の拠点とするための整備をおこなった。 ・用地交渉において、用地単価、所有者死亡による外国人相続等が発生し、交渉が難航するケースがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用地取得業務は、用地交渉の頻度を増やすことで早期取得が可能である。

今後の取り組み方針

- ・残り1名の地権者との手続きをすすめ、全用地の早期取得に努める。
- ・整備後の維持管理方法についての方向性を検討する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
223,784	223,784	179,027	44,757	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託の業者選定は、指名競争入札により実施しており、妥当であった。 ○公有財産の購入は、鑑定評価に基づく適正価格での地権者との契約、支出であり、妥当であった。 ○費用、用途については、事業目的達成の観点から必要な物であり、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

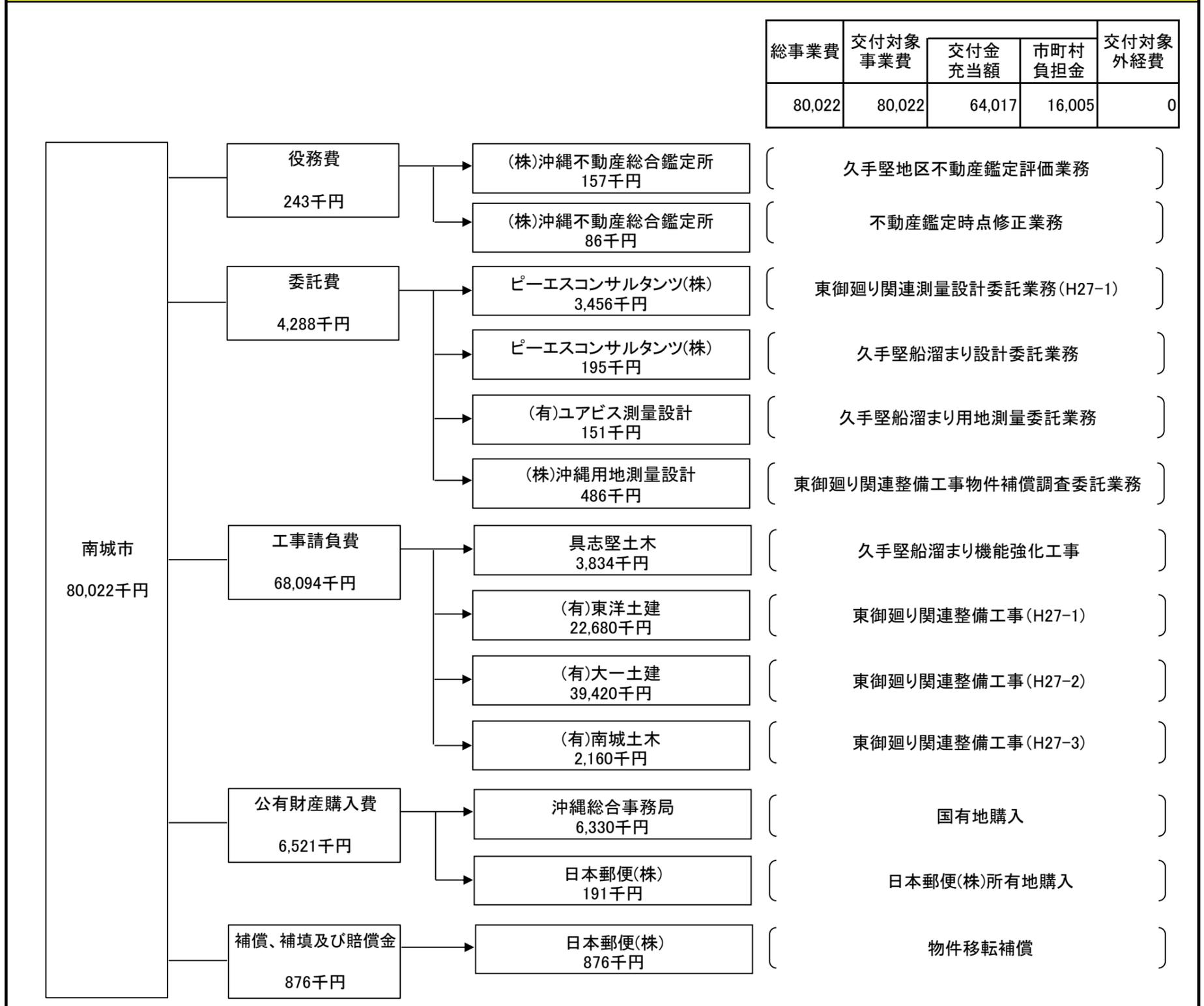
市町村名	南城市						
平成27年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-① 東御廻り等・体験交流受入整備強化事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 第3章-3-(2)-(ア) 国際的な沖縄観光ブランドの確立					
担当部課名	企画部 観光商工課 土木建築部 施設整備課	事業実施(予定)年度 平成27~31年度 沖縄振興基本方針該当箇所 III-1-(1)					
事業内容	斎場御嶽を拠点に年間約40万人の観光客が訪れることから、集客エリアの安全確保のため、駐車場から斎場御嶽までの歩道整備や市内に点在する史跡の駐車場整備等により受入体制を整え、更なる観光振興を図る。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		27年度	27年度(繰越)	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	84,231	—			
		(b) 予算現額	83,410	—			
		(c) 増減額(b-a)	▲ 821	—			
		(d) 繰越額	—	45,356			
		A. 計(b+d)	83,410	45,356			
	B. 執行済額		38,054	41,968			
	うち交付金充当額		30,443	33,574			
	次年度繰越額		45,356	0			
	執行率(%) (B/A)		45.6%	92.5%			
予算の状況の説明		用地購入にあたり、利害関係者との調整に不測の日数を要し、工事のスケジュールに大幅な遅れが生じたため、年度内完了が困難となり、平成28年度へ繰越した。 積算の精査、入札残、不動産鑑定及び物件補償調査により、委託料で162千円、工事請負費で2,788千円、公有財産購入費で51千円、補償費で387千円の不用額が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	歩行者の安全対策 ・歩道整備(設計・工事):岬公園から物産館まで ・道路カラー舗装整備工事:知念郵便局から斎場御嶽まで ・国有地購入	目標	歩道整備、道路カラー舗装整備、国有地購入	()	()	()	()
		実績	歩道整備、道路カラー舗装整備工事、国有地購入の完了				
	久手堅船だまりの船揚げ場の整備	目標	(船揚げ場の整備)	()	()	()	()
		実績	船揚げ場の整備完了				
達成状況説明	平成27年度に国有地購入、久手堅船だまりの船揚げ場の設計及び整備工事を実施した。また、平成27年度から平成28年度にかけて歩道整備工事、道路カラー舗装整備工事を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	歩行者の安全対策の実施 ・歩道及び道路カラー舗装整備(設計委託業務・工事)の完了(岬公園から物産館まで、知念郵便局から斎場御嶽まで) ・国有地購入(268.18㎡)	目標	()	カラー舗装整備、国有地購入	()	()	()
		実績		カラー舗装整備、国有地購入			
	久手堅船だまりの機能強化 ・施設整備工事の完了	目標	()	(工事の完了)	()	()	()
		実績		工事の完了			
	進捗状況説明	歩行者の安全対策として、岬公園から緑の館・セーファの入館券を販売している地域物産館までと、知念郵便局から斎場御嶽までの一部の歩道整備を実施した。また、斎場御嶽を訪れる観光客の暑さ対策として、知念郵便局から斎場御嶽までの道路カラー舗装を実施した。 自転車を訪れる観光客のための駐輪場を整備するため、国有地を購入した。 久手堅船だまりの機能強化として、船揚げ場の整備を実施し、当初の目標どおり完了した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>斎場御嶽を拠点に年間約40万人の観光客が訪れているが、地域物産館の第2駐車場として利用している岬公園側の駐車場から斎場御嶽までは、一部歩道がない箇所があるため、歩行者の安全対策として歩道整備を行った。また、地域物産館から斎場御嶽までは徒歩での移動となり、夏場は道路からの反射熱で熱中症にかかる可能性が高いことから、遮熱のため知念郵便局から斎場御嶽までの道路にカラー舗装を実施した。</p> <p>用地購入にあたり、利害関係者との調整に不測の日数を要してしまったことから、平成28年度に繰越して事業を実施した。</p> <p>台風時に船を避難させる場所として船揚げ場を整備し、機能強化を行った久手堅船だまりについては、今後の利活用に向け誘客事業に力を入れる必要がある。</p>	<p>用地購入にあたっては、利害関係者と綿密に調整を行い、事業期間の延長がないような計画で実施する必要がある。</p> <p>久手堅船だまりの利活用については、市観光協会等と連携し、体験プログラム等の開発を進める必要がある。</p>

今後の取り組み方針

歩道及び道路カラー舗装整備により、斎場御嶽に訪れる観光客の安全が確保されつつあるが、今後も観光客の安全安心を確保するための取り組みを行う。また、久手堅船だまりについては、体験プログラム等の開発など市観光協会等と連携し、新たな観光の場となるよう取り組みを行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、 点 検 評 価 目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○不動産鑑定及び少額の委託業務は、南城市契約規則で随意契約によることができる額の範囲内であったことから、随意契約を行った。また、委託業者及び工事請負業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>○事業内容は全て実施しており、予算規模は適正な規模であった。</p> <p>○費目、用途については完了後に検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断する。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南城市		平成27年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】				
事業番号・事業名	1-⑬	南城市観光コア施設整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(6)-(ア)			
担当部課名	企画部 観光商工課	事業実施(予定)年度	平成27~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	III-1-(1)		
事業内容	本市の観光情報発信・観光交流、観光振興及び観光客の利便性向上を図るための観光交流拠点整備構想を策定し、情報発信・交流拠点施設整備を行い、更なる観光振興を図る。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		27年度	27年度(繰越)	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	13,263	—			
		(b) 予算現額	12,163	—			
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,100	—			
		(d) 繰越額	—	12,163			
		A. 計(b+d)	12,163	12,163			
	B. 執行済額		0	11,664			
	うち交付金充当額		0	9,331			
	次年度繰越額		12,163	0			
	執行率(%) (B/A)		0.0%	95.9%			
予算の状況の説明		指名競争入札の執行により、契約金額が予算額を下回った。 また、関連する南城市の公共施設統廃合の計画と整合性をとる必要が生じたことから、年度内完了が困難となった為、12,163千円を平成28年度へ繰越した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	基本構想の策定	目標	(策定作業)	()	()	()	
		実績	策定作業				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	平成27年度に対象地の調査、関連計画の整理を実施し、平成28年度にヒアリング調査、市民ワークショップ、庁内クロスファンクション会議、地域円卓会議、基本構想書のまとめを実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	施策展開に向けた基礎資料を整理し、観光コア施設整備に向けた基本構想の完了	目標	()	(基本構想の完了)	()	()	()
		実績		基本構想の完了			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	施設に求められる機能を検討する為、条件整理や事例・ニーズ調査等を行い、平成28年9月に基本構想を策定した。尚、基本構想書は100冊印刷を行った。					

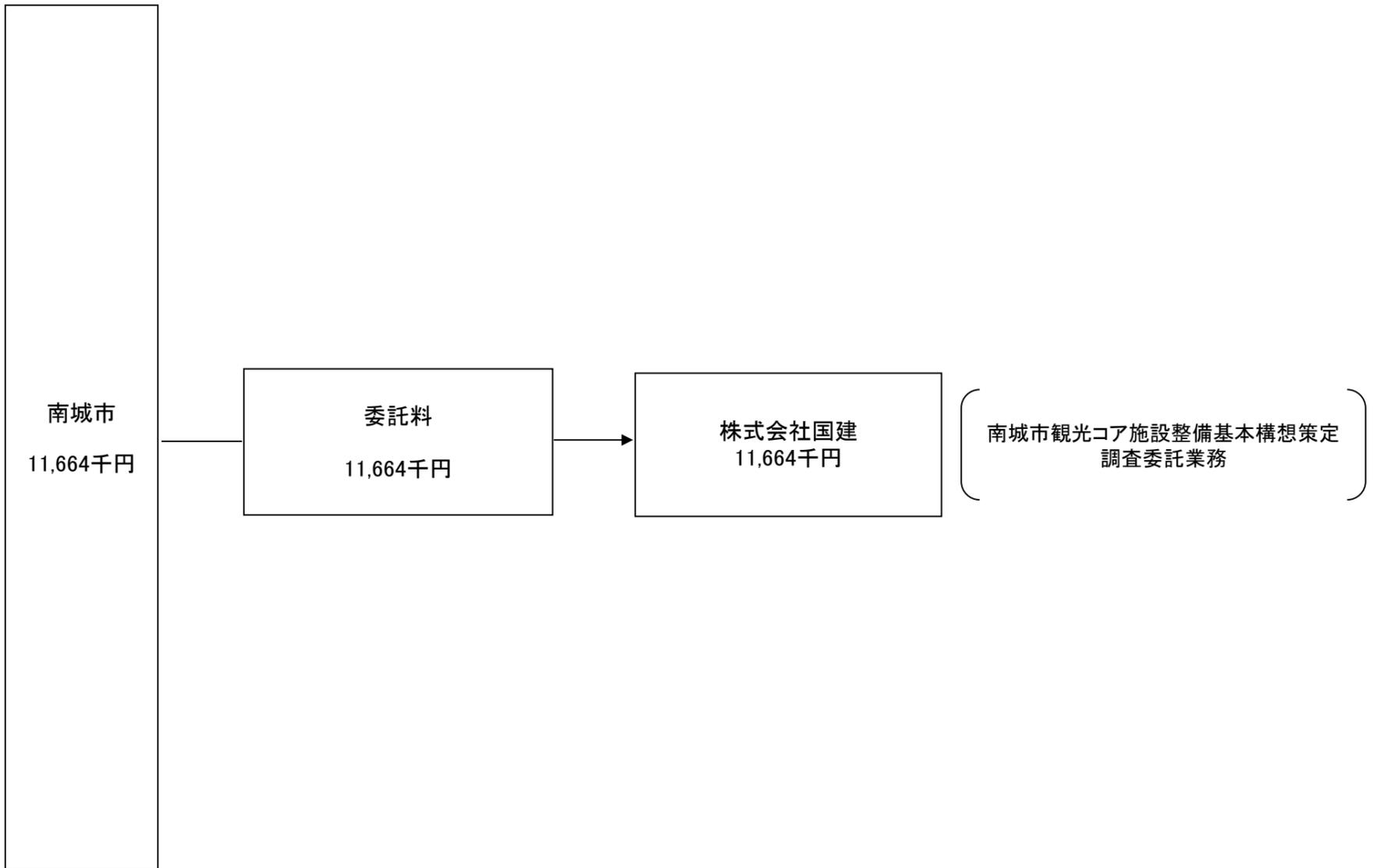
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	本施設の整備地区は南城市都市計画マスタープランにおいて中核地に位置づけられており、今後南部東道路が開通し、交通の利便性が良くなることから、市民と観光客の交流拠点であるとともに、南城市の玄関口としての機能を担う。	市の中核地に係る様々な事業や計画と関連することから、整合性を重視した施策運営を図る必要があり、今後の事業運営に支障を来たすことない取り組みを目指す。 観光サービスや市民との交流の機会を創造できるような仕組みづくりを目指す。
	様々な機能を検討するにあたり、南城市内の老朽化した公共施設の統廃合等の方針を示した管理計画との整合性を図る必要があり、平成28年度へ繰越を行った。	
	南部東道路が着工しており、動向を観察しながら今後の取組みを行っていく必要がある。	

今後の取り組み方針

平成28年9月に基本構想が策定されたことから、今後はその内容に基づき基本計画を策定し、基本設計、実施設計、建設工事を行っていく。事業の運営においては、使う側の視点に立ったサービスの構築と持続可能なソフト・ハード運営となるような仕組みづくりを目指す。例えば、南城市の観光情報を求めて本施設を訪れた人がワンストップで宿泊、食事、アクティビティ、交通、物産などに接続できるサービスや主要観光地以外の魅力的な地域やスポットの紹介、隣接する公共駐車場や市役所新庁舎、宿泊施設などと連携した取り組みを展開して利便性を高め、人が訪れ続ける施設となる仕組みを作っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
11,664	11,664	9,331	2,333	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務の業者選定は指名競争入札で行っており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については執行率が95.9%であり、適正な規模であったと考えている。 ○業務完了後の検査に合格していることから費目・用途は事業目的に即し、真に必要なものに限定されていると理解している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 南城市

平成27年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-② 平和学習受入体制強化事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-4-(2)-(ウ) アジア・太平洋地域の安定と平和に資する平和・人権協力外交の展開
担当部課名	企画部 観光商工課	事業実施(予定)年度	平成25~28年度
		沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容 平和学習の一環として第二次世界大戦の追体験を行っている糸数アチラガマ壕内の緊急時における通報システムの構築及び施設外に保管している日本軍の150mm加農砲等を移設展示し平和学習受入れ体制を強化する。

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		25年度	26年度	27年度	27年度(繰越)	28年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a) 当初予算額	1,229	—	8,824	—	
	(b) 予算現額	1,229	—	13,489	—	
	(c) 増減額(b-a)	0	—	4,665	—	
	(d) 繰越額	—	—	—	4,623	
	A. 計(b+d)	1,229	—	13,489	4,623	
	B. 執行済額	1,089	—	8,866	4,623	
	うち交付金充当額	871	—	7,092	3,698	
	次年度繰越額	0	—	4,623	0	
	執行率(%) (B/A)	88.6%	—	65.7%	100%	
	予算の状況の説明	戦争遺産物の移設場所について、関係者への同意を得るのに時間を要したため、設計の発注が遅れた。また、移設展示物は腐食もあり、保管工法の選択にも不測の日数を要したため、年度内の完了が困難となり、工事費にかかる4,623千円を平成28年度へ繰り越した。				

活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度
		・通報システム設置	目標 (通報システム設置)	()	()	()
	実績	通報システム設置完了				
・加農砲等補修、移設設置	目標 (加農砲等補修・移設設置)	()	()	()	()	
	実績	加農砲等補修・移設設置完了				
達成状況説明	平成27年度に緊急通報システム整備工事、戦争遺産展示物調査設計を実施した。また、平成27年度から平成28年度にかけて、加農砲等の補修及び移設設置を実施した。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)	
			・見学者の緊急時における迅速な対応の確保	目標 ()	(確保)	()	()	()
				実績	/	確保		
			・平和学習施設の強化	目標 ()	(強化)	()	()	()
	実績	/	強化					
進捗状況説明	通報システムの構築により、緊急時における迅速な対応が可能になった。平成28年4月末で加農砲等の移設設置が完了し、平和学習施設としての機能が強化された。							

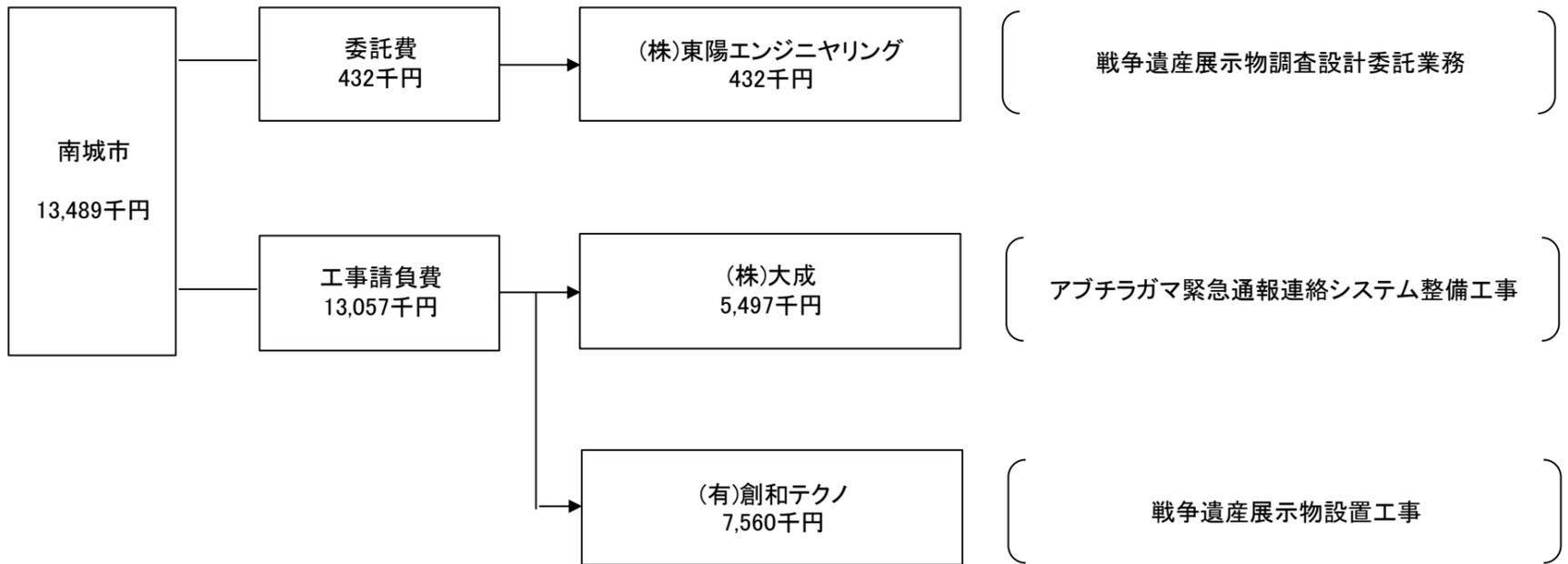
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>系数アブチラガマでは、戦争当時を再現するため照明を消した追体験を実施している。その追体験中に体調を崩す生徒等があり、既存の通報システムでは迅速な対応ができなかったことから、通報システムを構築し直し、緊急時における迅速な対応が可能になった。</p> <p>加農砲等の移設に際し、関係者の同意を得るのに不測の日数を要し、また、保管工法の選択にも不測の日数を要したため、平成28年度に繰り越して事業を実施した。</p> <p>移設置した加農砲等の活用について、検討する必要がある。</p>	<p>今後、事業実施に際しては、関係者とこれまで以上に緊密に意思疎通を図ることで、事業期間の延長がないように努める。</p> <p>加農砲等の活用については、系数アブチラガマ専属ガイドと連携する必要がある。</p>

今後の取り組み方針

今後は、系数アブチラガマ専属ガイドと連携し、系数アブチラガマと加農砲等を活用して平和の尊さを伝えていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
13,489	13,489	10,790	2,699	0



資金の 使途の 流れ、 点検、 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務は、南城市契約規則で随意契約によることができる額の範囲内であったことから、随意契約を行った。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○工事請負業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○事業内容は全て実施しており、予算規模は適正な規模であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については完了後に検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断する。